

令和2年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

和庄中学校区 校番13 学校名 和庄小学校

a 学校教育目標	夢を持ち自ら学ぶ ～気づき・考え・実行する～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命)子どもたちが、来ることを楽しみに思う、笑顔あふれる学校づくり。 〈ビジョン〉(将来の学校像)9年間を通して、郷土を愛する心豊かでたくましい子どもを育成することにより、地域に信頼される学校を目指す。
----------	---------------------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	「和庄中学校区授業モデル」に基づいた授業改善を進め、一定の成果を上げることができた。しかし、学力の個人差が大きく、基礎学力に課題の残る児童がいる。算数科においては、学校全体に課題がある。本年度は、基礎・基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を行っていく。また、「気づき・考え・実行する」をテーマに防災教育や和庄中学校区スピリットに基づく児童の育成の充実を図り、「主体性・積極性」のさらなる育成を目指す。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	知識・情報活用能力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性
-------------	-------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力	学力の向上	○算数科における基礎・基本の定着	・スキルタイムの充実を図る。 算数科の 前年度の計算練習を重点的に行う。 ・家庭学習の習慣化を図る。 低 決められた宿題を必ずする。 中 自主勉強(考えて復習) 高 自主勉強(考えて復習+予習)	学力テストと学期末テストの基本問題正答率 低 85 中・高 80	85	低 78%	91%	B	低 50%	60%	C
		○主体的・対話的で深い学びの実現	・思考ツールを活用した課題発見・解決学習の授業づくり	児童アンケートの肯定的評価 活用問題正答率	80 60	89% 73%	111% 122%	A A	84% 71%	105% 118%	A A
** 豊かな心	和庄中学校区スピリットに基づく児童の育成	○礼儀正しく節度を守る児童の育成	・毎月の生活目標を児童の実態に合わせて、「和庄中学校区スピリット」に基づく内容で提示し、目標達成のための具体的方策を学級ごとに設定、実践する。	・学級で設定した実践方法に取り組んだ児童の割合を80%以上に達成した学級数の割合。 (児童アンケート)	85	100%	117%	A	100%	117%	A
		○人を助け学校や地域社会に貢献する児童	・帰りの会等で自分や友達の行動を評価し合う時間(なごみ宣言)を設けたり教師の話で行動の価値づけをしたりする。(教師や友達から「なごみボランティアカード」を配り、評価を受けられるようにしておく。)	・なごみボランティアに取り組んだ児童の割合が80%以上。 (児童アンケート)	85	82%	96%	A	83%	96%	A
* 健康やかな体	健康促進・体力の向上	○個々の体力・運動能力の向上	・体育科の充実を図る。 くれチャレンジマッチスタジアムへの参加する。 ・授業最初にサーキット、コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ・外遊びの充実を図る。 外遊びの紹介 委員会 低学年の遊びスペースの確保	・昨年度の新体力テストの結果を上回っている学年(男女別)の割合 ・児童アンケートで1日20分以上遊んだと答えた児童の割合	80 85	26% 78%	33% 92%	D B	40% 77%	50% 91%	D B
		○災害から自分の命を守る児童の育成(防災教育の充実)	・ブラインド避難訓練を実施する。 ・避難所で行われている歯磨きを行う。 ・防災教育の授業を全員1回以上実施する。	・児童アンケートで肯定的評価をした割合 避難訓練で自分で考え行動した。 避難所で行われている歯磨きの仕方を身に付けた。 授業を受けて自分の命を守ろうとする意識が高まった。	80	85%	106%	A	87%	109%	A
業務改善	教職員が主体的積極的に業務を行う教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・週予定の打合せを充実させ教職員一人一人がスケジュール管理を確実に行う。	・自ら考えて行動し業務改善を行いながら児童と向き合う時間が確保できたと感じる職員の割合	80	62%	77%	C	71%	89%	B
		長時間勤務の軽減	・会議の効率化を図る。 ・行事や業務内容の見直しを行う。	時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合	100	96%	96%	B	97%	97%	B

【k:評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60